

# 町史

とっておきの話

189

森林総合研究所 松浦俊也

## 山菜とキノコがもたらす森の恵み

山菜・キノコ採りは日本各地で古くから行われており、雪の多い東北や北陸地方で盛んなことが知られています。只見町は、広大なブナ林と雪食地形の草地・低木林がモザイク状に広がる豊かな自然環

境に恵まれ、とりわけ山菜・キノコが種類・量ともに豊かな地域です。町の皆さんがご存じのとおり、只見町は、かつては日本のゼンマイ市場価格を決めるほどゼンマイ採りが盛んでした。当時

りと秋のキノコ採りを頻繁に行っており、夏は溪流釣り、冬はいくつかの世帯の方々が狩猟をされるといふように、現在でも一年を通じて自然環境を頻繁に利用している様子が捉えられました。また、両地区の計15名近くの方々に昨年の春から秋にかけて採取日誌をつけて頂いたところ、季節の移ろいに応じて様々な種類の山菜・キノコを採りに行かれていたことが分かりました。とくに、山菜採りでは溪流林や雪崩草地・低木林などの自然攪乱が生じやすい場所、キノコ採りでは老齢ブナ・ナラ林が、生育地・採取地としてとくに大切であることが分かりました。また、林道に車を停めて歩いて採取地まで出かける、半日から一日で採取することが多いことから、日常的な山菜・キノコ採りなどのために林道を維持する重要性が分かりました。また、天然



▲只見町産のナメコ

や贈答、個人売買などが主で市場に出ることは少ないものの、潜在的には大きな資源価値があることが分かっています。

自然環境の特徴や持続的な資源利用のしかたを地域ごとに調べ、将来世代に伝えていくことは、とても大切です。私たちの調査はこれらのほんの一端を調べたものですが、只見の方々にも、只見以外の日本や世界各地の方々にも参考になるような成果をまとめられれば幸いです。



▲只見町産のゼンマイ

境に恵まれ、とりわけ山菜・キノコが種類・量ともに豊かな地域です。町の皆さんがご存じのとおり、只見町は、かつては日本のゼンマイ市場価格を決めるほどゼンマイ採りが盛んでした。当時

比べて山菜・キノコ採りはずいぶん少なくなつたと伺っています。外から来た者から見ると、森林や草地などの自然環境が今でも日常的によく利用されていると感じます。私たちの研究所では、環境省の研究助成を受けて、生物多様性（様々な動植物などの生き物がいて、それらがつながり支えあう生態系があること）が人々の生活にもたらす恵み（生態系サービスと呼ばれる）の大きさを調べる3年間の調査研究プロジェクトを2008年から只見町で行っています。このような豊かな自然の大切さは、あたりまえのことであるがゆえに、逆にこれまで日本各地であまり調べられてきませんでした。私たちが布沢地区と黒谷地区の全戸に配布したアンケートでは、多くの世帯（回答世帯の7割弱）が春の山菜採

りや贈答、個人売買などが主で市場に出ることは少ないものの、潜在的には大きな資源価値があることが分かっています。